

整理番号: sakamotosekkai-1  
作成日: 2024年2月6日

## 製品安全データシート (SDS)

### 1. 製品及び会社情報

製品名 消石灰  
会社名 全国農業協同組合連合会  
担当部署 耕種資材部  
住所 〒100-6832 東京都千代田区大手町 1-3-1 J Aビル 33F  
電話番号 03-6271-8285  
FAX番号 03-5218-2536  
電子メールアドレス [zz\\_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp](mailto:zz_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp)  
緊急連絡番号 03-6271-8285

推奨用途及び使用上の制限 肥料用。肥料用途以外には使用しないで下さい。

### 2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類 皮膚腐食性/刺激性 : 区分2  
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分1  
発がん性 : 区分1A  
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分1(呼吸器)

GHSラベル要素  
絵表示



注意喚起語  
危険有害性情報

危険  
H315: 皮膚刺激  
H318: 重篤な眼の損傷  
H350: 発がんのおそれ  
H370: 臓器の障害(呼吸器)

注意書き

[安全対策(予防策)]

P201: 使用前に取扱説明書を入手すること。  
P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。  
P264: 取扱い後は手をよく洗うこと。

[応急措置(対応)]

P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。  
P305+P351+P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。  
次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。  
その後も洗浄を続けること。  
P308+P313: ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること。

GHS分類に関係しない又は  
GHSで扱われない他の危険  
有害性

データなし

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 化学物質  
化学名又は一般名 別名: 消石灰

成分(化学名又は一般名)	濃度又は濃度範囲	CAS RN	官報公示整理番号
水酸化カルシウム(消石灰)	≥95%	1305-62-0	化審法:(1)-181、安衛法:既存化学物質
二酸化ケイ素(結晶質シリカ)	<0.5%	14808-60-7	化審法:(1)-548、安衛法:既存化学物質

<p>4. 応急措置</p> <p>吸入した場合</p> <p>皮膚に付着した場合</p> <p>眼に入った場合</p> <p>飲み込んだ場合</p> <p>急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状</p> <p>応急措置をする者の保護に必要な注意事項</p> <p>医師に対する特別な注意事項</p>	<p>多量に吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移動させ、医師の診断を受ける。</p> <p>製品に触れた部分を水又は石鹼水で十分に流しながら洗浄する。</p> <p>眼球を傷つける恐れがあるため、眼を擦らないで、清浄な水で十分に洗浄し(できればコンタクトレンズをはずして)、直ちに医師の診断を受ける。</p> <p>清浄な水でよく口の中を洗い、直ちに医師の診断を受ける。</p> <p>吸入した場合：咽頭痛。咳。灼熱感。</p> <p>皮膚に触れた場合：発赤。荒れ。痛み。皮膚の乾燥。皮膚熱傷。水疱。</p> <p>眼に入った場合：充血。痛み。重度の熱傷。</p> <p>飲み込んだ場合：灼熱感。腹痛。胃痙攣。嘔吐。</p> <p>救護者が有害物質に接触しないよう手袋やゴーグルなどの保護具を着用する。</p> <p>本物質は、気道を刺激する。医学的な経過観察が必要である。</p>
<p>5. 火災時の措置</p> <p>適切な消火剤</p> <p>使ってはならない消火剤</p> <p>火災時の特有の危険有害性</p> <p>特有の消火方法</p> <p>消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置</p>	<p>周辺火災の場合は、すべての消火薬剤の使用可。</p> <p>データなし</p> <p>不燃性であり、火災・爆発の危険性はない。</p> <p>注水は飛散防止に配慮する。</p> <p>消火作業の際は必ず保護具を着用する。</p>
<p>6. 漏出時の措置</p> <p>人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置</p> <p>環境に対する注意事項</p> <p>封じ込め及び浄化の方法及び機材</p> <p>二次災害の防止策</p>	<p>処理作業の際には保護具(保護メガネ、防塵マスク、保護手袋、保護衣)を着用し、粉じんを吸入したり、皮膚への付着を防止する。</p> <p>シート等で覆い、飛散拡大の防止を図る。河川等に流入しないように注意する。</p> <p>粉じんが発生しないように掃き取り、乾燥した空容器に回収する。</p> <p>こぼれた物質を、ふた付きの容器内に掃き入れる。</p> <p>取扱いや保管場所の近傍での飲食の禁止。</p> <p>排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流出を防ぐ。</p>
<p>7. 取扱い及び保管上の注意</p> <p>取扱い</p> <p>技術的対策</p> <p>安全取扱注意事項</p> <p>接触回避</p> <p>衛生対策</p> <p>保管</p> <p>安全な保管条件</p> <p>安全な容器包装材料</p>	<p>皮膚、眼との接触、粉じんの吸入を避けるため、保護具(防塵マスク、保護メガネ、保護手袋、保護衣)を着用する。</p> <p>粉じんの発生を極力抑え、適切な集塵装置を設置する。</p> <p>ミストの発生を防ぐ。</p> <p>データなし</p> <p>作業中は飲食、喫煙をしない。</p> <p>密栓して乾燥した冷暗所に保管し、大気との接触を避ける。</p> <p>防湿に留意する。</p> <p>強酸から離しておく。</p> <p>耐アルカリ性容器を用いる。</p>
<p>8. ばく露防止及び保護措置</p> <p>許容濃度等</p>	

化学名	管理濃度 (厚生労働省)	許容濃度 (日本産業衛生学会)	許容濃度 (ACGIH)
水酸化カルシウム	設定されていない	第3種粉塵 吸入性粉塵:2mg/m <sup>3</sup> TWA 総粉塵:8mg/m <sup>3</sup> TWA (2020年版)	Total dust:5mg/m <sup>3</sup> TWA (2019年版)
二酸化ケイ素 (結晶質シリカ)	石英(結晶) 遊離けい酸含有率 0.5%の粉塵 として、 1.88mg/m <sup>3</sup> *1)	吸入性結晶質シリカ 吸入性粉塵:0.03mg/m <sup>3</sup> TWA (2020年版)	Silica, crystalline, respirable dust 0.025mg/m <sup>3</sup> TWA (resp.) for α-quartz and cristobalite (2019年版)

\*1) 労働安全衛生法・作業環境評価基準 2009年7月1日改正告示  
別表の種類I(土石、岩石、鉱物、金属又は炭素の粉塵)を適用する。  
管理濃度E(mg/m<sup>3</sup>)は、遊離けい酸含有率Q=0.5%として、 $E=3.0/(1.19Q+1)=1.88\text{mg}/\text{m}^3$

設備対策 粉じんが発生するような場所は、局所排気装置を設置する。

保護具

呼吸用保護具

手の保護具

眼、顔面の保護具

皮膚及び身体の保護具

特別な注意事項

防塵マスク

保護手袋(不浸透性の材質のもの)

保護メガネ(ゴーグル型)、保護面(防災面)

保護衣(体の露出部分が少ない長袖作業服等)、保護長靴

データなし

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態

色

臭い

融点/凝固点

沸点又は初留点及び沸点範囲

可燃性

爆発下限界及び爆発上限界

/可燃限界

引火点

自然発火点

分解温度

pH

動粘性率

溶解度

n-オクタノール/水分配係

数(log値)

蒸気圧

密度及び/又は相対密度

相対ガス密度

粒子特性

その他のデータ

固体

白色

無臭

データなし

データなし

不燃性

不燃性でありデータなし

不燃性でありデータなし

不燃性でありデータなし

580°C(水を失って酸化カルシウムとなる)

12.4(飽和水溶液)

データなし

水にわずかに溶ける。水0.14g/100g(25°C)

グリセリンに溶け、アルコールには溶けない。

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

粒子径の中央値が3~6µm(測定原理:レーザー回折・散乱式)の粉状から

粒状

データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性

酸性溶液に可溶である。

<p>化学的安定性 危険有害反応可能性 避けるべき条件 混触危険物質 危険有害な分解生成物</p>	<p>酸類と反応し発熱する。 強酸化剤と反応する。 空気中に放置すれば、二酸化炭素を吸収して炭酸カルシウムとなる。 水の存在下で、多くの金属を侵し、引火性/爆発性のガス(水素)を生成する。 常温で安定、不燃性。 加熱すると、分解し、酸化カルシウムを生じる。 水に微溶であるが、水溶液は強アルカリ性を呈す。 データなし 酸化カルシウム</p>
---	--

## 1 1. 有害性情報

<p>急性毒性</p>	<p>経口ラット LD<sub>50</sub> 7340mg/kg 経口マウス LD<sub>50</sub> 7300mg/kg</p>
<p>皮膚腐食性/刺激性</p>	<p>本物質は強塩基性物質であり、身体表面に中等度の腐食又は刺激作用を持つとの記載がある (ACGIH (7th, 2001))。また、本物質はヒトの皮膚に対して中等度の刺激性を示すとの記載 (IUCLID (2000)) や、腐食性を示す (EPA Pesticide (2005)) との記載がある。 ヒト皮膚に対して moderate, severe, corrosive な刺激を示すとの記述 (IUCLID, 2000; HSDB, 2005; ICSC (J), 1997; SITTING, 4th, 2002; HSFS, 2005)</p>
<p>眼に対する重篤な損傷性/ 眼刺激性</p>	<p>本物質は強塩基性物質 (pH 10.9-11.9 (EPA Pesticide (2005))) であり、身体表面に中等度の腐食又は刺激作用を持つとの記載がある (ACGIH (7th, 2001))。また、本物質は眼に対して腐食性を示す (IUCLID (2000)) との報告や、非可逆的な傷害を与える (EPA Pesticide (2005)) との記載がある。 ウサギに対して corrosive な刺激を示すとの記述 (IUCLID, 2000) ウサギ 10mg; 重度の刺激性 激しい目の刺激性</p>
<p>呼吸器感受性又は皮膚感受性</p>	<p>データなし</p>
<p>生殖細胞変異原性 発がん性</p>	<p>データなし (結晶質シリカ) 多くの疫学研究結果において、本物質(石英)を含む結晶質シリカへの職業ばく露と肺がんリスクの増加との間に正の相関が認められており、特に複数の研究結果をプールし異なるメタ解析を行っても、相対リスクは一貫して有意な増加を示した (IARC 100C (2012), SIDS (2013))。すなわち、本物質の形状を有する結晶質シリカ粉じんの吸入ばく露によりヒトで肺がんの発症リスクが増加するのは十分な証拠があるとしている (IARC 100C (2012))。 一方、実験動物では雌雄ラットに本物質 (空気力学的中央粒子径 (MMAD): 1.3µm) を 1mg/m<sup>3</sup> で 2年間吸入ばく露した試験、また雌ラットに本物質 (MMAD: 2.24µm) を 12mg/m<sup>3</sup> で 83週間鼻部ばく露した試験において、ばく露群では肺腫瘍の有意な増加がみられ、組織型としては腺がんが多かった。さらに、雌ラットに本物質 (MMAD: 1.8µm) を 6.1、30.6 mg/m<sup>3</sup> で鼻部ばく露した試験でも、用量依存的に肺腫瘍の増加がみられ、組織型では扁平上皮がんが最多で、細気管支/肺胞上皮がん、又は腺腫も多くみられた (IARC 100C (2012))。 以上、ヒト及び実験動物での発がん性情報より、IARCは本物質粉じんばく露によるヒト発がん性に対し、1997年に「グループ 1」に分類し、2012年の再評価でも分類結果を変更していない (IARC 68 (1997), IARC 100C (2012))。他の国際機関による発がん性分類結果としては、日本産業衛生学会が「第1群」に (産衛学会勧告 (2015))、ACGIHが2004年以降「A2」に (ACGIH (7th, 2006))、NTPが結晶質シリカ(吸入性粒子径)に</p>

生殖毒性	対して、「K」に分類している (NTP RoC (13th, 2014))。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	データなし ヒトに気道刺激性、粘膜腐食性があり、咳、粘膜の火傷、肺水腫、嘔吐、胃痙攣を引き起こすとの報告がある (ACGIH (7th, 2001)、EPA Pesticide (2005)、HSDB (Access on September 2014))。実験動物のデータはない。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	データなし
誤えん有害性	データなし
1 2. 環境影響情報	
生態毒性	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	モントリオール議定書の付属書に記載されていない。
1 3. 廃棄上の注意	
化学品(残余廃棄物)	水溶液は強アルカリ性であり、中和等の処理を行う。 廃棄においては、関係法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
汚染容器及び包装	空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
1 4. 輸送上の注意	
国連番号	該当しない
品名(国連輸送名)	なし
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	なし
容器等級	なし
海洋汚染物質	該当しない
MARPOL 73/78 付属書II	該当しない
およびIBCコードによる	
ばら積み輸送される	
液体物質	
輸送又は輸送手段に関する	輸送に際しては直射日光を避け、容器の漏れのないことを確かめ、落下、転倒、損傷がないように積み込み荷崩れの防止を確実にを行う。
特別の安全対策	
緊急時応急措置指針番号	なし
国内規制がある場合の規制	特に注意する国内規制はない。
情報	
1 5. 適用法令	
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	該当しない
労働安全衛生法	第57条第1項 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (施行令第18条 第1号、第2号別表9: 317 水酸化カルシウム) (施行令第18条 第1号、第2号別表9: 165-2 結晶質シリカ)
	第57条の2 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (施行令第18条の2 第1号、第2号別表9: 317 水酸化カルシウム) (施行令第18条の2 第1号、第2号別表9: 165-2 結晶質シリカ)
毒物及び劇物取締法	該当しない
船舶安全法	該当しない
航空法	該当しない

消防法 該当しない

## 16. その他の情報

改訂情報 作成日 2012年10月 1日  
最新の改訂日 2022年 5月 1日

### 引用文献

- ・ 16716の化学商品 化学工業日報社(2016年)
- ・ 国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版  
水酸化カルシウム ICSC番号0408 石英 ICSC番号0808
- ・ 化学物質総合検索システム(CHRIP) 製品評価技術基盤機構(nite)

### 記載内容の取扱い

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載データや評価に関しては、いかなる保証もなすものではありません。また、注意事項は通常の見取りを対象としたもので、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施のうえ、お取扱い願います。

---

本SDSは下記、宇部マテリアルズ株式会社の情報を元に作成しました。  
該当物質については下記にお問い合わせください。

会社名	宇部マテリアルズ株式会社
住所	山口県宇部市大字小串1985番地
担当部署	品質保証部
電話番号	0836-31-0363
FAX番号	0836-31-0313
緊急連絡番号	03-3279-3234(カルシア関連事業部)